

道の駅価値創造セミナー（第4回）

～道の駅を拠点とした新しい“旅”のあり方～

観光は、生活者にゆとりや豊かさを与え、また地域を活性化する振興策として、おおいに期待が高まっています。一方で、観光をめぐる状況は、団体旅行から個人旅行へのシフト、ドライブ観光の増加、グリーン・ツーリズムやエコ・ツーリズムなどの増加など、大きく変化しています。これからの観光は、従来の有名観光地だけでなく、なにげない地方の暮らしを体験するなど、地域の生活や産業、文化そのものを観光対象としてとらえる広がりを見せています。

道の駅は、地域により経営されており、地域資源を最も知っており、地域を巻き込んだ、観光への取り組みが可能です。すでに先進的な道の駅では、ドライブ観光の休憩だけでなく、地域の特産品や料理の提供を通じて、着実に観光客のファンを増やしています。また、観光案内コーナーの設置や、周辺観光プログラムの提供、また地域発の旅行商品を開発・販売する事業へ進出する道の駅も出てきています。

そこで第4回は、「道の駅を拠点とした新しい“旅”のあり方」と題して、道の駅からはじまるツーリズムの可能性を検討します。

第1部の基調講演では、新たな観光の開発を手がけている株式会社ジェイティービーの常務取締役事業創造本部長の清水愼一様から、「これからの“旅”のスタイルと道の駅の可能性」と題して、ご講演いただきます。

第2部では、観光交流に先進的に取り組んでいる道の駅として、奈良県川上村の「道の駅杉の湯川上」の久保信幸駅長、岐阜県土岐市の「道の駅土岐美濃焼街道どんぶり会館」の丹羽正孝駅長の2名から、その取り組みと展望についてご報告いただきます。

第3部では、株式会社日本総合研究所から、「地域資源の発掘と活用の方法」と題して、観光に取り組む実践的な方法を提案します。次いで、伊藤忠商事株式会社 未知倶楽部室から、「新たな“旅”の時代に向けた未知倶楽部の取り組み」を提案します。

本セミナーにご参加いただき、道の駅活性化の情報を得ていただくとともに、全国の道の駅関係者と交流を図っていただき、みなさまの道の駅の価値向上が進展することを願っております。

会場

<日時>平成18年12月4日（月）13：30～18：00

<場所>全国情報サービス産業厚生年金基金（JJK）会館
2階 多目的ホール（受講申込書の地図参照）
東京都中央区築地4-1-14

受講料

無料

開催団体

主催：株式会社日本総合研究所

協力：伊藤忠商事株式会社

プログラム

- 13:30 開会あいさつ
株式会社日本総合研究所 常務執行役員 原田 裕司
- 13:35 第1部 基調講演
「これからの“旅”のスタイルと道の駅の可能性」
株式会社ジェイティービー 常務取締役 清水 慎一
- 14:40 第2部 事例報告
「地域ネットワークを通じた観光周遊コースづくり」
道の駅杉の湯川上 駅長 久保 信幸
「美術館との連携による地域文化再発見の試み」
道の駅土岐美濃焼街道どんぶり会館 駅長 丹羽 正孝
- 15:40 休憩
- 16:00 第3部 提案
「地域資源の発掘と活用の方法」
株式会社日本総合研究所 上席主任研究員 金子 和夫
- 16:30 「新たな“旅”の時代に向けた未知倶楽部の取り組み」
伊藤忠商事株式会社 未知倶楽部室長 賦勺 尚樹
- 17:00 閉会
- 17:00~18:00 交流会（別会場で参加者同志の交流を図る会費1,000円の立食会を開催します）

基調講師プロフィール

◆清水 慎一 株式会社ジェイティービー 常務取締役 事業創造本部長
1948年生まれ。東京大学法学部卒業。日本国有鉄道に入社。東日本旅客鉄道(株)に移行し、本社営業部企画部長、東日本キヨスク(株)代表取締役専務、JR東日本取締役営業部長、取締役仙台支社長を歴任。現在は宇宙ビジネスや定住促進など事業の創設に参画する傍ら、国土交通省の国土基盤専門委員会をはじめ、諸官庁の観光事業審議会委員等も多数兼任し、地域の観光振興のために幅広く情報発信や提言を行っている。

発表する先進事例

(1) 道の駅杉の湯川上「地域ネットワークを通じた観光周遊コースづくり」

奈良県吉野郡川上村は、奥吉野と呼ばれ日本三大美林の1つ・吉野杉の生産地で、大台ヶ原から水を集めて流れる吉野川の上流沿いに開けた村です。道の駅杉の湯川上は、シティ派感覚のホテルが併設された旅の拠点で、毎月体験型のプランがあり、滞在しながら露天風呂に入りのんびりくつろぐことができます。木に触れ、川で遊び、史跡を巡り、川上村を存分に楽しめます。

◆久保 信幸（道の駅杉の湯川上 ホテル杉の湯 支配人／駅長）

昭和25年奈良県吉野生まれ。奈良交通で営業、運行管理、渉外担当等を歴任。平成4年に奈良交通を退職後、出身地の川上村のホテル杉の湯の副支配人となる。平成5年にホテル杉の湯支配人、道の駅杉の湯川上の駅長となる。

(2) 道の駅土岐美濃焼街道どんぶり会館 「美術館との連携による地域文化再発見の試み」

岐阜県土岐市は、岐阜県の東南部にある1300年の歴史を誇る陶器の産地です。道の駅は美濃焼のアンテナショップという性格のほか、作陶教室などアミューズメントの機能もたっぷりあり、窯元や陶芸作家の情報も提供しています。道の駅の周囲には、28箇所ものアート施設があり、有名な岐阜県現代陶芸美術館、中山道広重美術館、熊谷守一記念館、東山魁夷美術館などがあります。

◆丹羽 正孝（道の駅土岐美濃焼街道どんぶり会館 駅長 とき窯元共販協同組合 専務理事）

昭和25年岐阜県生まれ。家電関係の営業を経て、窯業へ転じ、とき窯元共販協同組合専務理事として、美濃焼の普及促進に関わる。平成9年道の駅設立とともに駅長となり、地域に愛され、人とのふれあいの場づくりを心がけるとともに、平成15年に広域連携の必要性を説き、東濃道の駅連合会（当時9駅）をまとめて会長となる。

お申し込みにあたって

- ①参加申込書をFAXでお申し込み下さい。なお、受講票は発行いたしません。参加申込書を当日受付にお持ち下さい。
- ②申込み締め切りは、11月30日（木）とさせていただきます。

問合せ先

株式会社日本総合研究所 研究事業本部 東京都千代田区一番町16番

内容照会：金子 和夫

申込照会：桜井 友香

TEL：03-3288-4098

会場地図

平成18年12月4日（月）13時30分～18時
全国情報サービス産業厚生年金基金（JJK）会館 2階 多目的ホール
東京都中央区築地4-1-14
TEL（03）3546-5151
地下鉄：
《浅草線・日比谷線》東銀座駅 6番出口 徒歩3分
《大江戸線》築地市場駅 A3出口 徒歩3分

